

令和7年度第2回 仙台市立病院経営評価委員会議事録

- 1 日 時 令和8年3月16日(月) 18:00～
- 2 会 場 仙台市立病院 3階第3会議室
- 3 出席者 藤森研司委員長、猪岡京子委員、今西陽一郎委員、及川寛史委員、鈴木信子委員、大和一美委員(委員6名)
奥田病院事業管理者、渡辺院長、八木医療管理監、山口理事、大上次長(兼)経営管理部長、佐々木看護部長、中道健康福祉局保健衛生部参事兼企画調整担当課長、太田経営管理部参事兼総務課長、堀江経営医事課長、小林情報システム課長、岡部財産管理課長、中田総合サポートセンター副センター長、吉野経営医事課主幹兼企画医事係長、鈴木財務収納係長、鏡健康福祉局保健衛生部医療政策課企画調整担当係長、笹野健康福祉局保健衛生部医療政策課医療政策係主事、今泉財務収納係主事、結城診療情報管理士、渡辺診療情報管理士、渡邊診療情報管理士
- 4 欠席者 島村弘宗委員

- 5 次 第
 - (1) 開 会
 - (2) 挨 拶
 - (3) 委員委嘱・委員紹介
 - (4) 委員長選出
 - (5) 報 告
 - ①令和8年度 予算について
 - (6) 議 事
 - ①「仙台市立病院経営計画(令和7年度～令和9年度)」進捗状況について
(令和7年4月～12月実績)
 - (7) 閉 会

配付資料

- 資料1 令和8年度予算について
資料2 「仙台市立病院経営計画(令和7年度～令和9年度)」進捗状況

<議事概要>

- (1) 開会
- (2) 挨拶
奥田事業管理者から挨拶
- (3) 委員委嘱・委員紹介
事務局から各委員及び当院関係者を紹介
- (4) 委員長選出
 - ・委員長選出
今西委員から藤森委員を委員長に指名、各委員、異議なしで了承された。
 - ・職務代理者選出
藤森委員長から島村委員を委員長の職務代理者に指名、各委員、異議なしで了承された。
- (5) 報告
 - ・会議公開の確認⇒異議なし(傍聴者なし)。
 - ・議事録署名委員を鈴木委員、大和委員に依頼。⇒了承。

①令和8年度 予算について

(事務局から資料1を説明)

(質疑応答)

【及川委員】

令和8年度の予算を見て気になった点は、令和8年度の診療報酬改定を織り込んでないという部分はあるものの、3か年計画から大幅に下振れしているというのが一点。二点目としては、現金預金が3か年計画では、約65億前後で推移し、減らないというような計画だったが、令和8年度の予算を見ると約40億となっている。令和8年度は資金繰りが回るとは思うが、令和9年度には運転資金の2ヶ月分を下回る水準となる見込みであり、資金繰りが回るのか心配である。さらに自己資本も約32億円に減少するため、債務超過が見えてくる。また、市場金利の上昇が見込まれる中、資金調達は今後厳しさを増すと考えられ、財務状況は非常に厳しいとの印象を受けた。今後は、令和8年度の診療報酬改定のプラス分を織り込んだ場合に、当初の計画にどこまで近づけるのかを注視していく必要がある。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

ご指摘の通り、現金預金の減少は非常に厳しい状況にある。診療報酬改定によるプラス分については概算を計算しているものの、それを加味しても、現金預金の減少スピードは当初の計画を上回っている。来年度は、病床稼働率の向上等によって収益を向上させ、現金預金が減るスピードを抑制していかなければならないというのが院内共通の認識である。

【今西委員】

私も及川委員と同意見である。令和8年度の診療報酬改定の内容を見ると、貴院においては、令和8年度の入院収益は、予算上の約129億円から約5億円程度のプラスになるのではないかと思う。一方で、費用面についても、職員給与費の上昇などを要因として、更なる増加が見込まれる。こうした状況を踏まえると、この数字のままで計画を遂行するのは無理があると思う。そのため、補正予算を改めて編成するのか、あるいはその時点での実績値を使うのかについては病院としての判断となるが、現状の予算と当初の計画があまりにも乖離があるというのが感想である。

【藤森委員】

病床稼働率については、現実的な数値設定であると感じるものの、もう少しチャレンジしないといけないのではないかと感じた。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

令和8年度の診療報酬改定の影響については、実際にその影響が明らかになった段階で、補正予算として収益の増額を行う必要があると考えている。また、病床稼働率については、もう少し引き上げられる余地があると認識しており、稼働率の向上に取り組むことで、運転資金が維持できるよう努めていきたい。

(6) 議事

①「仙台市立病院経営計画（令和7年度～令和9年度）」進捗状況について

(令和7年4月～12月実績)

(事務局から資料2を説明)

(質疑応答)

【大和委員】

資料2の2ページ「戦略1-(3)」における目標と実績で、「①入院化学療法件数（延べ件数）」の件数が減少しているのは何か原因があるのか。貴院は化学療法にも力を入れて対応している印象があるが。

【仙台市立病院事務局 奥田病院事業管理者】

化学療法入院患者数については、特に血液内科が減少傾向であるが、現時点では明確な原因は特定できていない状況である。一方で、新薬の進歩により薬物療法のコントロールが改善していることが背景の一つとして考えられる。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

外科の乳腺患者においては、紹介が減っていることも原因の一つかもしれない。

【猪岡委員】

資料2の7ページ「戦略4-(1)」における主な取り組み状況で、後発医薬品の使用促進を図るため整腸剤の切り替えを行ったとのことだが、昨今、整腸剤は流通が悪く使用促進していくには非常に大変だったと思うが、具体的にはどのような取り組みをしたのか。また、整腸剤を選択した理由はなにか。

【仙台市立病院事務局 吉野経営医事課主幹兼企画医事係長】

後日、詳細を確認し、委員の方々へ別途、回答させていただく。

【猪岡委員】

資料2の7ページ「戦略4-(1)」における目標と実績で、「③薬剤管理指導件数」が月に1,000件以上対応している点については、薬剤師が患者さんにまんべんなく対応しており、非常に努力されていると感じている。

【鈴木委員】

資料2の2ページ「戦略1-(2)」における主な取り組み状況で、緊急手術用の手術室を常時稼働させるという点について、これまでは当該手術室は稼働していなかったのか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

手術室8室のうち、緊急帝王切開などの緊急手術に対応するため、常に1部屋を空けて運用していた。

【鈴木委員】

緊急用手術室の稼働率は100%に近い状況であったのか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

緊急用手術室以外の手術室については、稼働率が100%を超える状況が続いていた。一方で、緊急対応用に確保していた手術室は稼働率が低い状況であったことから、当該手術室をより有効に活用するため、別の場所に緊急用の手術室の整備を進めている。

【鈴木委員】

外来部門に手術室を新設するのか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

救急外来に手術が可能なスペースがあったため、必要な改修を行い、緊急用の手術室として4月から運用開始できるよう整備を進めている。これにより、手術室8室を常時稼働させる体制とした。

【今西委員】

資料2の2ページ「戦略1-(2)」における主な取り組み状況で、ロボット手術の対象分野を広げている印象があるが、令和8年度診療報酬改定の「内視鏡手術用支援機器加算」は取得を目指せそうなのか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

ロボット手術の実施枠については、空きが生じないように、診療科間での連携体制を強化しながら運用し、症例数の増加を図りながら、加算の実績要件である年間200例の達成に向けて取り組んでいく予定である。

【今西委員】

「内視鏡手術用支援機器加算」は1件15万円の加算であるため、取得できるように頑張ってもらいたい。

【藤森委員長】

前立腺は加算算定の対象外となっていたが、前立腺以外のロボット手術は全体の何割実施されているのか。

【仙台市立病院事務局 吉野経営医事課主幹兼企画医事係長】

ロボット手術全体のうち、前立腺を除く他のロボット手術実施割合は70%となっている。

【及川委員】

資料2の4ページ「戦略2-(2)」における目標と実績で、「①病院・開業医からの紹介患者の救急での応需率」が86.0%となっているが、依頼件数は前年度と比較して増えているのか。

【仙台市立病院事務局 吉野経営医事課主幹兼企画医事係長】

病院・開業医からの依頼件数については、前年度と比較すると、若干ではあるものの減少している状況である。

【及川委員】

14%は断っていることとなるが、一回断ってしまうと今後の紹介件数に影響はあるものか。

【仙台市立病院事務局 渡辺院長】

紹介いただいた後の対応によっては、相手の医療機関からの評価や今後の紹介にも影響があると考えている。また、緊急手術の対応や重症患者の受入れが立て続けに発生し、結果として、受入れが難しく、お断りせざる得ない場合もある。

【藤森委員長】

資料2の6ページ「戦略3-(1)」における目標と実績で、「①逆紹介患者数」が目標値に若干届いていない状況であるが、令和8年度診療報酬改定における初診料および外来診療料の減算規定に関する「逆紹介割合」の基準が、30%未満から50%未満へ変更となった。貴院の逆紹介割合はどの程度なのか。参考までに、東北大学病院は40%であり、50%未満に該当するため、さらに10%上昇させる必要がある。

【仙台市立病院事務局 吉野経営医事課主幹兼企画医事係長】

後日、詳細を確認し、委員の方々へ別途、回答させていただく。

【今西委員】

資料2の11ページ「戦略2-(1)」における目標と実績で、「①診療材料費対医業収益比率」と「①薬品費対医業収益比率」を合算した割合は、医業収益に対して33.0%となる。一方、資料1に示されている令和8年度予算の医業収益にこの33.0%を乗じると、材料費は約59億円となるが、令和8年度予算における材料費は約53億円であり、差し引き約6億円分の縮減が必要となる計算である。この縮減のための方策は何か考えているか。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

資料2において材料費比率の計算に用いられている材料費は税込額である一方、資料1の予算に記載されている材料費は税抜額であり、この相違が材料費比率の差異が生じる要因の一つとなっている。しかし、ご指摘の通り、材料費に関しては今後も高騰が見込まれるため、資料に記載の通り、共同購入の推進やベンチマークを活用した価格交渉などの取り組みを継続し、材料費の縮減に努めていく。

【藤森委員長】

資料2の14ページ「戦略1-(1)」における目標と実績で、「②時間外労働45時間超(医師以外)職員数(月平均)」の45時間としている意味は何かあるのか。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

労働基準法に基づく36協定では、時間外労働は原則として月45時間以内を上限としており、これを超える時間外労働は年6回までと制限されているため、本指標ではこれらの時間を設定している。

【鈴木委員】

この指標には、看護師も含まれているのか。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

医師以外であるため、看護師も含まれている。

(7) 閉会

以上

議事録の記載内容につきまして、すべて相違ありません。

令和 8 年 6 月 19 日

議事録署名委員

鈴木 信子

大和 一美

